

令和5年度たがみ台保育園における自己点検及び自己評価の結果

令和6年2月実施

実施期間・[令和6年2月13日～2月29日実施]

評価基準・[A:かなりできている B:ほぼできている C:あまりできていない D:ほとんどできていない]

評価方法・[A:4 B:3 C:2 D:1と換算して平均を出した。]

常勤・非常勤の全職員から提出された自己評価票を園長がまとめた。

	自己評価の観点	評価	意見・改善策
I 保育の計画性	1、園の保育理念・保育方針を理解している。	B	・今年、3,4,5歳児クラスは、保育指針の勉強会が多かった。来年度は、未満児も取り組んでいきたい。 ・季節に応じた環境設定を行い園児の動線や目線等も考えられた環境構成がされていた。 ・ビデオ公開で保育の見直しもできたが、もう少し客観的な分析方法の学びの必要を感じる。
	2、保育所保育指針を理解していると思う。	B	
	3、園の全体的計画を理解していると思う。	A	
	4、指導計画の作成 ○指導計画は、保育指針・全体的計画・園児の実態等をもとに作成している。	B	
	5、環境の構成 ○安全で清涼感のある環境構成をしているか。	B	
	○園児が自ら活動を展開していけるような場や構成をしているか。	B	
	○園児の動線や目線に配慮した環境構成をしている。	B	
	○季節の変化に応じた環境構成をしている。	B	
	6、保育と計画の評価・反省 ○自分の保育と計画の評価と・反省は行うようにしている。	B	
	○評価反省を次の保育と計画に活かせるように行っている。	B	
○自分の保育を公開して、それをもとに検討しているか。	B		
II 保育の在り方・園児への対応	1、健康と安全 ○登園時は視診や検温により園児の体調が悪くないか確かめている。	B	・保健衛生リーダーを中心に園児の安全、怪我、事故や感染所についての学びを深めた1年であった。
	○体調が悪そうときは静かに寝かせたり検温をしたり適切な処置を行いすぐに家庭に連絡している。	B	
	○園内に危険な個所や物がないか、危険な遊び方はないか観察している。	B	
	○事故や怪我が発生した時は、園長に報告したり保護者に連絡取ったり医者に診てもらおうなど適切な処置を行っている。	B	
	2、乳幼児の理解 ○一人ひとりの園児をよく観察するように心がけている。	B	・サークルタイム等を取り入れクラス全員で考える機会を増やし、子どもたちの主体的な意見を保育に活かしていった。 ・主体的な遊びの補償や道具提供など、美的にするためには・もう少し工夫が必要である。
	○園児同士のかかわりの中で、その姿の内にある心の動きについても推察するようにしている。	B	
	○園児の理解のために保護者と話し合うことがある。	B	
	3、指導とのかかわり ○園児の心を傷つけたり、人権を無視したりする言葉や態度、関わり方をしないようにしている。	B	
	○園児の気持ちに共感しながら一緒によく遊んでいる。	B	
	○園児の話をよく聞くようにしている。	B	
	○園児を褒めたり励ましたり、目当てを持たせるような言葉かけをしている。	B	
	○園児の個性や性格、特徴に応じた関わり方をしている。	B	
	○[先生のようにやってみたい]と園児が思う立ち振る舞いを心がけている。	B	
4、保育者同士の協力と連携 ○園児について保育者間で話し合い、クラスを超えて情報を共有している。	B	・疑問に思った点などクラスを超えて共通理解がされてきた。	
5、○指導上必要な園児については、職員全体で話し合い、共通理解を持ち対応するようにしている。	B		

	自己評価の観点	評価	意見・改善策
Ⅲ 専門家としての資質 (能力・良識・適性等)	1、専門家としての能力・良識・義務 ○園児の性格や個性を把握するように努めている。	B	・キャリアアップ研修を通して各分野の専門性を学んだり、ケース会議等を2か月に1回取り入れたりして共通理解を深めてきた。 ・職員の休憩時間等に子どもの発達について話し合い喜び合う姿が多くあった。 ・研修報告会を開き学び合える場をつくる。
	○朝と帰りのあいさつは、明るく元気に親しみをこめている。	A	
	○何かをしてもらったら感謝の気持ちを言葉等で表している。	A	
	○職務上知り得たプライバシーに関する情報などの秘密を守っている。	A	
	2、組織の一員としての在り方 ○子どもの事やクラスの出来事で必要な事は、園長や主任に報告・連絡・相談をしている。	B	
	○職員や園の批判を軽はずみにしていない。	B	
	3、保育の楽しみ・喜び ○園児のささやかな成長が理解でき、それを喜ぶことができる。	A	
	4、周りを感じ取れる感性 ○保育や子育てに関する情報を絶えず捉えようとしている。	B	
	5、研修と研究 ○研修会には課題を持ち進んで参加している。	A	
○園の遊具や教材、機材について基本的な使い方を知っている。	B		
○障がいのある園児に対応する保育のあり方を学習している。	B		
Ⅳ 保護者への対応	1、情報の発信と受診 ○クラスや子どもの様子、保育ポイントをクラスだより等で知らせている。	B	・保育士の仕事軽減のためICT化され紙媒体の配布がなくなり便利になったが、連絡帳のやり取りが少なくなった。 ・全園児の保護者と個別面談を行い成長発達について共有し保護者の安心や今後の成長につなげるように務めた。
	○個々の子どもの様子は、直接話したり連絡帳を使ったりして伝えている。	B	
	2、協力と支援 ○保護者からの様々な訴えや意見要望については、安易に受けたり断ったり無視したりしないで園長や主任に報告や相談をしている。	B	
	3、守秘義務の遵守 ○保護者の住所・電話番号や個人情報の管理は、園の方針に従っている。	B	
	4、対応 ○電話は相手が見えない為に誤解が生じやすいので、手短かに簡潔に要領よく対話することを心がけている。	B	
5、クレームへの対処の仕方 ○保護者からのクレームがあった場合は、謙虚に話を聞き、園長に連絡・報告・相談している。	B		
Ⅴ 地域との関わり	1、地域との関り ○地域の人々と親しく挨拶や会話を交わしている。	B	・町内会や長寿会と連携を取り年3回の触れ合いをしている。 ・卒園児がご家族で遊びに来ることも増えた。
	○卒園児の情報を得よう努めている。又は努めようとしている。	C	
	○子育て支援のあり方について職員全体で話し合っている。	C	
	○地域の行事や祭りに積極的に参加したり、協力したりしている。又機会があれば協力しようと思う。	C	
Ⅵ 人権尊重	1、人権尊重 ○すべての子どもについて、一人ひとりの存在とその人権を尊重していますか。	A	・全職員が人権擁護や不適切な保育について学びを深めた。
	○障害をもった子もたない子も、一人ひとりのありのままの姿を受け止め、健やかに成長することを願って保育をしていますか。	A	